

本格的な輪地焼き

台風や天候不良で輪地切り作業が遅れていましたが、9月25日から輪地焼き作業を開始しました。

第1回目は9月25日、第2回目は10月1日、第3回目は10月23日の3日間に及び、参加者は延べ80人余りの大作業となりました。

30余年ぶりに刈り払って乾燥した草の量は意外と多く、周囲への延焼に注意しながら焼く作業は思いのほか時間と労力が必要なことがわかりました。

また、思わぬ火の広がり備えて、シューターの水を補給する水溜めをあちこちにつくっておく必要性も感じました。

飛び火しないよう注意して順次点火していく

一連の作業を通じて、高齢化の進んだ地域では、広大な牧野の輪地切り、輪地焼きが困難になっていく現実を身を持って感じています。

大変な作業ですが、貴重な湿原再生のためには避けて通れない活動で、会員の再生実現に向けた熱意で一步步目標に近づきつつあります。



白煙を上げて焼ける輪地は、来年の野焼きでは防火帯としての機能を発揮する